

1  
2019

三重病院

# ニュースレター

news letter vol.233

01 年頭のごあいさつ

02 新年のごあいさつ

03 新年のごあいさつ

04 プランター花壇「にじいろガーデン」  
外来からのお知らせ／外来診察のご案内



## 年頭のごあいさつ

国立病院機構三重病院 院長 藤澤隆夫

あけましておめでとうございます。

2019年が皆様にとって、素晴らしい年になりますことを心からお祈りします。

### ◆新しい年に

2019年は新元号が始まります。このニュースレターが出る頃にもまだ発表されていないと思いますが、ぜひ明るい未来に向かって希望がもてるような元号だとよいですね。

三重病院は全国142の病院ネットワークである国立病院機構に属しているのですが、この国立病院機構は、年に1回、国立病院学会を開催して、よりよい医療を作るための研究発表をしています。それが今年には11月に名古屋で開催され、三重病院は副会長施設としてお手伝いをする事になっています。テーマは、「〇〇における国立医療の挑戦：明日は変えられる」です。

〇〇、って変なテーマとお思いでしょ。ここには新元号が入るのです。再生医療やAIなど期待される進歩の一方で、少子高齢社会、医療費高騰による国民負担の増大などいろいろな問題も抱えながらの医療の世界ですが、このテーマには、困難を乗り越えて、国民のための質の高い医療を提供したいという私たちの願いが込められています。〇〇にぜひ期待したいと思います。

### ◆地域のニーズに応える医療めざして

三重病院は、小児医療とセーフティネット医療という二つの分野を大きな柱にしています。セーフティネット医療とは、さまざまな障がいや難病をもっておられる患者様への医療であり、国立病院機構が担うたいせつな役割のひとつです。小児医療は三重県の小児救急医療拠点病院として、急性期から、治療に長く時間がかかる慢性期まで幅広くカバーしています。ただし、総合病院ではありませんので、成人の患者様には神経難病や慢性呼吸器疾患、糖尿病などに特化した医療を提供させていただいています。つまり、小規模ながら、「山椒は小粒でぴりりと辛い」病院と言わせていただいてもいいかもしれません。

このように特化した分野で最高の医療を！が私たちの目標ですが、たいせつなことは地域の皆様のニーズに応え

ていくことと考えています。皆様には、このような三重病院の機能をご理解いただき、ぜひ、いろいろなご要望、ご意見をいただけますと幸いです。

### ◆アレルギー疾患医療拠点病院

ぜん息、花粉症、食物アレルギーなどのアレルギー疾患は増加しつづけ、今や国民の3人に1人は何らかのアレルギーを持っていると言われていています。現在、それぞれの疾患の治療にはガイドラインが整備されてきてはいますが、必ずしもすべての患者さんには行き渡っていないことが問題となっています。もちろん、三重病院のアレルギー科を受診される患者様には、ガイドラインにもとづいた標準的な治療はもちろんのこと、新しいよりよい治療を提供させていただいています。しかし、全国を見渡すと、すべての必要とする人までは標準的な治療が届いていないのが現実です。そこで、アレルギーで困っておられるすべての患者様にきちんとした医療を提供していくため、平成26年に「アレルギー疾患対策基本法」が成立して、国の政策が進められることになりました。その中で、三重県ではアレルギー疾患医療拠点病院として、三重病院と三重大学附属病院が指定されました。これから2つの病院が協力して、三重県全体のアレルギー疾患医療をよくしていく取り組みを始めることになったのです。

三重病院は、アレルギー疾患の正しい情報を発信する「アレルギーポータルみえ」<https://mie-allergy.jp/>、週2回、電話で相談を受け付ける「アレルギー相談センター」(059-236-4155 毎週月、木曜日 13:00～16:00)を開設しました。「アレルギーポータルみえ」では近くでアレルギーを診療していただける医療機関(アレルギー診療ネットワークみえ)も掲載しています。アレルギーでお悩みの方はぜひご利用ください。

### ◆おわりに

患者様の立場に立ち、オールラウンドではないけれど、専門分野では最高の医療を提供する、というのが三重病院のモットーです。今年も研鑽をしていきますので、どうかよろしく願いいたします。